

Real practice of gestational surrogacy within relatives in Vietnam

ベトナムの親族間代理出産の実情

Interviewee

Dr. Le Xuan Tung

Q. 研究者としてのバックグラウンドと、ベトナムの代理出産について研究しようと思った動機を教えてください。

2002年にベトナム国家大学の法学部を修了した。その後同大学で修士号を取得した。サウサンプトン大学で、ベトナムにおける代理出産の法的・倫理的側面について研究し、博士号を取得した。

代理出産の研究を始めた当初は、関連する文献はほとんどなかった。この分野の研究で貢献したいと考えていた。代理出産に関する包括的な規制を持っている国もたくさんあるので、そこから学ぶことがあると感じた。この分野について研究し、ベトナムの議員や政策立案者に提言することができると思った。

Q. 2015年に改正婚姻家族法が施行されてからマイナーな変更がありましたか？

2015年に施行された改正婚姻家族法に、今のところ変更はない。しかし、それより下位のレベルの法律で、議会やベトナム保健省から発出されたものがある。

例をあげると、商業的代理出産に関わった人に対する処罰について僅かな変更があった。ベトナムの刑法第187条では、代理出産の斡旋をする者は最大2億VND（約8,600米ドル）の罰金を課せられるか、最長2年の懲役刑を言い渡される。また、政府と保健省は婚姻家族法に

基づいて行われる代理出産についての細則を定めた。

代理出産を依頼できる人の範囲は変わっていない。法律婚をした異性カップルのみが依頼できる。利他的代理出産のみで、依頼カップルの親族だけが代理母になれる。商業的代理出産は禁止されている。

Q. 親族女性にプレッシャーが集中するなどの問題はないのでしょうか？

このような問題については、家族内だけで話しあいがなされるので、外部の者が口を挟むのは難しい。家族で話し合っただけで代理出産を行うと決めた結果が尊重され、その過程でどんな問題が生じたかを伺い知ることはできない。このような問題について、ベトナムでは調査は行われていない。自分はこの件について調査してみたいと思う。

代理出産はベトナムではまだまだポピュラーではなく、利用するカップルはほとんどいない。ベトナムでは代理出産に際して代理母の卵子の利用は禁止されており、体外受精の費用は高額であるため。代理出産の法律について詳しくない人がほとんどで、人々は法律に違反することを恐れている。そもそも、代理出産のことを皆よく知らないので、批判的な意見も出にくい。代理出産がもっと一般的になれば、違ってくると思う。

Q. ベトナムの国民は、代理出産(代理母が遺伝的に繋がりが無い子供を産むこと)について、正しく理解していますか？

2003年に全面禁止された後、2015年に利他的代理出産のみが合法化された。全面禁止→一部容認となったため、国民は利他的代理出産と商業的代理出産の違いについて混乱しているように思う。夫が代理母と関係を持つ(=不義を犯す)という



風に間違った理解をしている人もいる。体外受精の仕組みを知らないからそうなる。そのような誤解があるので、そのような人は、代理出産に対して批判的な見方をする。

メディアのプロパガンダは助けになっていなかった。メディアは、代理出産は本質的には商業的なものである(=対価を得るためのサービス)という考えを助長してきた。

しかし、2015年に改正婚姻家族法が施行されたことで、今では、代理出産は体外受精を用いるものだというところを、ある程度の数の国民は理解するようになった。

Q. ベトナム国民の間で、代理出産に対する偏見はありますか？

あると思う。例えば、自分で子どもを産めるのに代理出産を依頼する女性がいると考えている人もいる。メディアで、ベトナムやほかの近隣諸国の有名人が代理出産で子どもを持ったと報じられることがある。自分で子供を産みたくないお金持ちのセレブが依頼するものだと思っている。代理出産は裕福ではないベトナム人にとって高額であり、代理出産を求めて海外に行くベトナム人はあまりいない。

法律ができてからでも、代理出産は商業的な活動であり、代理母が対価を受け取ると思っている人もいる。

代理母が産んだ子供を渡さないという例は今のところ報じられていない。

Q. 親族から代理母を見つけられないベトナム人カップルはどうするのでしょうか？商業的な代理母を探しますか？

ベトナムでは代理出産の条件が厳しいので、親族から代理母を見つけるのが難しいカップルはたくさんいると思う。たとえ親族であっても、倫理的または家庭内の事情で、代理母を引き受けたがらない女性は多いのではないと思う。

その場合、ベトナム人カップルは(代理母に関するオンラインフォーラムを通して)非合法の市場で代理母を見つけているのではないかと。個人的には、そのようなカップルはそれほど多くはないと思うが。高額だし、リスクが高いから。

Q. ベトナム社会で、利他的代理出産はうまく機能していますか？

難しい質問だと思う。ベトナムの代理出産の条件は厳しく、依頼者カップルやその関係者は弱い立場に置かれている。依頼できるのは、法律婚をした異性カップルのみで、しかも代理母は彼らの家系図の同じレベルにいる女性の親族でなければならない。本来、代理母は、姉妹、義理の姉妹またはいとこに限られるはず。だから叔母、母、姪などは範囲外となる。それなのに、2016年にベトナム初の代理出産による出生児の事例では、代理母は依頼者の叔母であった。なぜかわからないが、この事例は保健省によって正式に承認されていた¹。

Q. 代理母への対価について議論されることはありますか？

対価について議論されることはあるが、サービスを提供したことに対する給与というかたちで金銭を支払うことはできない。もし金銭が渡された場合、それはお礼のためのギフトとみなされる。代

¹ Vietnam welcomes first baby born through surrogacy. [Link](#)



理出産を始める前やプロセスの途中で対価について話し合うことはできない。

もし、ギフトが出産後に渡された場合はおそらく問題ない。代理母の利他的行為に対する感謝の贈り物とみなされるから。もし、プロセスの前や途中で話し合った場合は、その代理出産は利他的とはみなされない。非合法の商業的代理出産と見なされる。しかし、法的にそれを見分けるのは難しい。

一番の目的は代理母になることで経済的な利益を得ようとする人々を阻止すること。

Q. ベトナムで子供を作らないライフスタイルはどの程度浸透していますか？

これまで、ベトナム社会はかなり伝統的な家族観を持っていたので、子供をつくらないライフスタイルは一般的ではなかった。それは儒教的な価値観で、中国からの影響が大きい。子供を持つことは義務。子供を持たないことは自己中心的であり、家族や社会、地域社会に貢献しない者だと思われた。

最近では、子供を持たないことは前よりは許容されるようになってきている。それに、結婚したがない女性が多い。お見合い結婚の場合ですら、子どものことにはあまり目が向けられていない気がする。

インターネット、テクノロジー、経済の発展で、ベトナムのライフスタイルは多様化している。子供を持たないライフスタイルはもっと受け入れられるようになってきている。結婚はしなくても、子供を持ってシングルマザーになる女性もいる。カップルは、昔ほど家族をつくることにプレッシャーを感じていない。

Q. 親族間で代理出産を行った事例を、身近に知っていますか？

身近な事例は知らない。メディア上のレポートから知っているだけ。依頼者の叔母が代理母になった事例が報告されている。しかしこれは先にも述べたように、法に反している。代理母が病院で出産し、その後で依頼母が現れたとき、周囲の人が混乱した。特に代理母と依頼者カップルが近くに住んでいる場合、近所の人たちが(どちらが母親なのか)混乱するというようなことが起こりやすいと思う。

一番最近の事例は、2021年7月16日にホーチミンにある Hung Vuong Hospital で女の子が誕生した。依頼者カップルは結婚後13年間不妊だった。妻の卵子と夫の精子で受精卵をつくるまで何回も体外受精が行われた。その例では、夫の妹がカップルの代理母を引き受けた。

Q. 親族間で代理出産を行なったあと、その後、親戚づきあいはどのようになると思われますか？

これは文化的な要素が大きい。ベトナムで大家族は互いに近所に住むことが多い。だから、代理出産が行われたら、ほかの家族にも知られる。家族の生活に影響が出ることもあるだろう。子どもが生まれた後に葛藤が生じる可能性がある。ある依頼者カップルは、このような問題を避けるために、子どもが生まれた後にほかの家族から遠く離れた場所へ引っ越しをした。

代理出産は家族以外の者や子どもに対しては秘密にする傾向がある。依頼親は他の家族が子どもに代理出産のことを告げることを恐れ、また、家族間の緊張を避けるため引っ越しをすることがある。

養子縁組のこともベトナムでは秘密にされるのが普通。

Q. 代理出産の依頼者は、お腹の中に詰め物をしますか？女性にとって、自分が産んだことにするのは大切なことでしょうか？

面白い質問だと思う。代理出産は親族間で行われるので、家族間でふりをするのは難しい。二人の女性が関係しているから。家族で話し合った後なら、代理出産はもっと普通に映るだろう。だから隠す理由はなくなる。代理母は依頼者カップルの親族でなければならぬため、依頼母と代理母の関係は親密だ。

しかし、養子縁組のケースで、他人（実の両親や義理の両親も含む）からの質問を避けるために妊娠しているふりをしていた女性を知っている。彼女は子どもが養子だということを知られなくなかった。

Q. ある研究者が、ベトナムでは出産によって築かれる母子の情愛がとても重視されているので代理出産は普及しないと分析しています。また、一説ではベトナムで最初に行われた代理出産で、代理母に感情の問題が生じたと言われています。しかし、関係した医師は、そのことについて話したがりません。ベトナムには代理出産を阻むような文化的要因がありますか？

私の意見は違う。ベトナムでは代理出産は法律で厳しく制約されているために一般的ではない。しかし、もし法律が緩和されれば、もっと普及すると思う。その研究は今では時代遅れかもしれない。テクノロジーが今ほど発展していなかったか、女性が代理出産について何も知らなかったときに行われたもの。それは最近になって変わってきている。私は代理出産は、将来、もっと広がる可能性があると思う。

ベトナム最初の代理出産に関わった医師は、法律による処罰を恐れていたか、何か否定的な経験をした可能性がある。

改正婚姻家族法は非常に限られた状況でのみ代理出産を認めている。代理出産を解禁したのは、子どもをもちたくても叶わなかった女性に門戸を開くため。そのような女性に可能性を与えるために、今回の変更が行われたと思う。医療コミュニティもこの変更に影響を与えたと思う。医師たちは、自分たちの治療行為が制限される上、何かあれば法律に違反する可能性があることを恐れていた。そのような声に応じて、代理出産の可能性をほんの少しだけ与えた形だ。

Q. 将来、“親族”という条件は外される可能性があると思いますか？

ベトナム保健省が代理出産に関するセミナーや学会を開催している。それらは健康面に重点を置いている。私は近い将来、代理母の範囲が友人などにまで広がるのではないかと思う。現状は、依頼者が代理母を見つけるのは極めて困難。

また、将来、シングルやホモセクシャルの人たちも代理出産を依頼できるようになる可能性がある。婚姻家族法が改正されたとき、同性婚の合法化も同時に提案された。これは議会を通過しなかったが、現在、再度合法化するようにとの働きかけがなされている。ゲイやレズビアンカップルも代理出産の利用を希望すると思われる。代理出産の範囲は将来的に広げられると思う。

Q. イギリスで代理出産改正が議論されていますが、その内容についてどう思いますか？

ドクターコースでイギリスの代理出産法についても研究した。それ以降、法律は変更されているようだ。イギリスの代



理出産の範囲はベトナムのそれよりもかなり広い。

私は多くのイギリス人が海外で代理出産を利用しているのを見た。依頼者は子どもをイギリスに連れ帰り、政府からイギリスの市民権をもらう。COVID-19によって、海外渡航は非常に難しい状況なので、代理出産を利用したいと考えているイギリス人は国内で代理母を見つけられなくなりました。つまり国内での需要が増えている。このことはイギリスの法改正の論議に影響を与えるかもしれない。

Q. 2015年以降、ベトナムで代理出産が関係する係争、訴訟はありましたか？

自分が知っている限りでは、代理出産によって生まれた子どもの親権をめぐる係争はない。法律が2015年に施行されて以来、メディアでも代理出産に関する訴訟は報じられていない。もしかしたら、議会や政府の委員会などでそのような事例が報告され議論されている可能性があるが、我々はその内容を知ることはできない。

Q. これまで、医師や依頼者、代理母が逮捕された例はありますか？ 代理出産が摘発された場合、生まれた子供はどうなりますか？

2021年の初めに、ハノイの医師が違法な代理出産に関わっていたというケースがあり、広く報じられた。二人の女性が代理母として雇われ、医師が彼女たちに虚偽の書類を書かせた。発覚し、医師と一味のリーダーが逮捕された。その代理母たちは二人の子どもを出産したが、その子どもたちがどうなったのかはわからない。

2011年に起こった別のケースでは、ベトナム人女性を代理母にするためタイに

送っていた組織が摘発された。その代理母たちは産んだ子どもと一緒にベトナムに帰ってきていた。これは法的に非常に難しい問題を引き起こした。ベトナム当局の決定により、彼女たちは産んだ子どもを引き取ることになった。

Q. 外国からベトナムに来て、ベトナム人代理母に商業的代理出産を依頼する例はありますか？

そのようなケースはほとんどない。逆に、ベトナム人女性が代理母になるために中国やモンゴルに行くケースが多い。最近、ベトナム人女性を中国に送り込んでいた組織が人身売買に問われて摘発された。この一味のリーダーはベトナム人で、中国人の助けを借りていた。

Q. 代理出産が広がれば、ベトナム人女性が国内外で商業的代理母として利用される危険性は高まるのではないのでしょうか？

その危険性はあると思う。もし、法律が緩和されれば、ますます多くの女性が代理母になることができるようになる。そして、当然、代理出産の件数も増えるだろう。代理出産ツーリズムも増える。

シングルや同性カップルが代理出産を利用できるようになれば、さらに需要が増えるだろう。シングルや同性カップルの中には、代理出産が法的に認められている海外の国で代理母を探している人もいだろう。しかし、ベトナムでそれができるのはごく一部の金持ちだけ。

Q. ハノイ(北部)、フエ(中部)、ホーチミン(南部)で、代理出産への考え方や慣行に関して違いは見られますか？

中部では、家族観はより伝統的な傾向がある。夫婦は子どもを持つべきだと感じている人が多い。特に家系を守るため



に息子を持たないといけない。結婚後すぐに子どもをつくるようにプレッシャーがかかる。しかし、中部の不妊カップルが家系を維持するために代理出産を望んでいるかどうかはわからない。経済的に余裕があればやるかもしれない。代理出産には多額の費用がかかるから。

南部では、もう少しオープンな考えを持っている。禁止される前に、商業的代理出産は主に南部で行われていた。

ベトナムの立法者はバランスの取れた意見を持っていると思う。代理出産は最近ではポピュラーになってきて、政策を立案する側もこの流れに乗っている。新しい議会は2021年の中ごろに選出される。議題は盛りだくさんで、彼らは多くの問題に取り組まなければならないので、代理出産の問題が着手されるかどうかはわからない。

Q. 代理出産の条件を緩めると、代理出産の依頼者がますます増え、代理母不足に陥り、商業的モデルに傾くのではないのでしょうか？

代理母不足になるとは思っていない。法律が改正されたら、今よりも多くの女性が代理母になることができるようになる。だから、考えなければならないのは、法律できちんと規制するということ。今後、シングルや同性カップルも代理出産を依頼できるようになれば、なおのこと。

対価の問題も、これから議論しなければならぬ。商業的代理出産と利他的代理出産の境界線ははっきりしない。それは、何の対価もなく喜んで協力する女性は僅かだという意味で。

(2021年7月)

Dr. Le Xuan Tung

HO CHI MINH NATIONAL POLITICAL ACADEMY([Link](#))の研究者。

人権法についての講師。

代理出産の倫理的・法的側面に焦点を当てた研究を行っている。

論文：

Le Xuan, Tung (2016) Ethical and legal aspects of surrogacy - recommendations for the regulation of surrogacy in Vietnam. University of Southampton, Doctoral Thesis, 243pp. [Link](#)